

夢

もっと

よひるがれ

新春
特別号

vol.201

発行・編集
いぶきファミリー
(いぶき福祉会後援会)

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
ibuki.m@ibuki-komado.com

あけまして
おめでとうございます。

お正月にお届けするのは初めての事です。
新年のご挨拶とともに、パストラル第2期事業を
応援して下さる皆様へのお礼を申し上げたくて、
少し早めの発行といたしました。

束の間の団らんの話のひとつだったり、
会える日が楽しみなあの人に思いをはせる
きっかけにしていただければ幸いです。

Kazuo Tsuduki

もくじ

2-3

新年のごあいさつ

4-8

パストラルいぶき第2期プロジェクト
お礼と報告

9

連載:心のバリアフリーナビゲーター
恩田聖敬が愛を語る

10-11

いぶきコミュニティーガーデン

12

仲間のすがた

13-16

パストラルいぶき第2期プロジェクトに
ご寄附くださった皆様
4コマまんが・編集後記



新年のごあいさつ

社会福祉法人いぶき福祉会 理事長
横山 文夫

新年おめでとうございます。

旧年中はいぶきが大変お世話になりました。本年もよろしくお願
い致します。

いぶきでは、昨年懸案であったパストラルいぶきの4棟目、5棟
目(D棟、E棟)の建設に取り組みました。そのために必要な資金
の一部である、目標の2,000万円の寄附集めをし、これを達成し
ました。皆様のご協力ありがとうございました。現在いぶきの北
部事業部の職員駐車場であった場所に新施設を建築中です。入
居予定者も決まり、本年4月の開設を予定しています。

パストラルいぶきは、重度重複の障害がある人も入居が可能な画
期的な施設です。しかし現在の厚生労働省の定める障害者支援
制度の下では、施設の開設者は経営的に厳しいやりくりを求めら
れることとなります。このような中でもいぶきでは、どんな障害が
ある人でも、親が老いていく中で、障害年金と給料で自立して自ら
の人生を全うしていける施設づくりを目指しています。パストラル
いぶきは、その重要な柱となる施設です。

昨年パストラルいぶきプロジェクトにご協力いただいた皆さん、そ
の他の皆さん、いぶきが法人設立の際の初志を守り、発展させて
いくには皆さんの応援が必要です。

どうかこれからも、いぶきの活動に対するご理解とご支援をいた
だけますようお願い致します。

安倍長期政権の下で、日本銀行が膨大な国債や株式を買い集め
景気を支えようとしています。自民公明が絶対多数を占める国会
を背景に憲法九条をめぐる政治状況も不透明です。このような中
で、マイナーである障害者福祉をめぐる今後の見通しは楽観でき
ないと考えています。このような国の障害者施策に関する分野に
も注目いただき、私たちと一緒に障害のある人の暮らしと権利擁
護のために行動していただけますようお願いいたします。

最後に今年一年の皆様とご家族のご健康とご多幸をお祈り致し
ます。

2020年元旦



新年おめでとうございます。
旧年中はお世話になりありがとうございました。
本年もよろしく願いいたします。

いぶきファミリー会長(代行)
長村 敬子

昨年は、元号が令和と新しくなり、いぶきも『パストラルいぶき第2期プロジェクト』という新しい取り組みをしました。

2019年7月より取り組んできました寄附集めは、無事に目標金額2,000万円(READYFOR目標金額500万円を含みます。)を達成することができました。

また、「岐阜に重い障害のある人が暮らせる新しいグループホームの建設を」とかかげたクラウドファンディングREADYFORも目標金額500万円を達成できました。

これもひとえに、みなさま一人ひとりの参加と協力の賜物です。そして、お金だけでなく、多くのエールをいただいたことを忘れません。心よりお礼申し上げます。

さて、1991年(平成3年)に「いぶき福祉会設立準備会」が立ち上がり、私も会員の一人として、資金集めをしました。現在のいぶきの基礎となる初めての募金活動でした。「どんな重い障害のある人も安心して豊かに暮らせる地域をつくる。ひとりひとりがかけがえのない存在になること」という理念に感動し、重度障害の子どもにも卒業後に通える場所を作りたい。という気持ちで、活動に参加をしました。

寄付金集めも、今は、ネットやSNSで呼びかけるなど、方法も大きく変わってきた部分があります。しかし、その当時は、親たちが、親戚、友達、知人、同級生などに、足を運び、手紙を書き、お金を集めてきました。いぶきまつりの協賛広告も近所のお店を一軒一軒お願いしてもらってきました。

障害者に理解ある人ばかりでなく、冷たくされたこともありました。

その後3回の寄附集めを行い、毎年開催することで「いぶきふれあいまつり」も地元に着定してきました。いまでこそ、「いぶき」の名前も浸透し、「ねこの約束」のお店を知っている方が多くなってきました。

この30年近くの間、障害者を取り巻く環境や法律も変わってきました。

支援費制度から障害者自立支援法に、そして障害者総合支援法にかわりました。

合理的配慮、差別解消法なども制定されました。

誰もが安心と希望をもって暮らせる今以上に寛容な社会の実現におき、仲間、そのご家族、ファミリー会員の皆様たちと、ともに語り、ともに活動していければと切に願っております。

初めの一步を踏み出してくれた人がいたからこそ、今のいぶきがあります。いぶきがあるのは、当たり前でなく、みんなが力を合わせて作り上げていったものです。最初の一步を踏み出してくれた人に感謝の気持ちを持ち、これからもみんなと、いぶきを盛り上げていきましょう。

今年度も、「どんな障害のある人も、生き生きと暮らしていける地域社会をつくる」ために、微力ながらお手伝いをしていきたいと思っております。

最後に皆様方の今年一年のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

2020年元旦

パストラルいぶき第2期プロジェクト ご支援ありがとうございました。

お礼のことば



保護者会長 大野 秀子

保護者の念願である、子ども達のためのグループホーム(パストラルいぶき第2期)の建設のための寄附活動を行ってきました。協力してくださった1,900名以上の皆様のおかげで目標達成できました。

始めた頃は、個人で活動をしていましたが、もっと私達の思いを広げたいと、保護者全員の気持ちを合わせて、バザーや街頭募金で、呼びかけをしてきました。

最初は、声を出したり、パンフレットを渡すことが思うようにできなくて、不安でしたが、勇気を出して、お願いをしました。すると、「応援しているからね。」や「がんばってぜひ成功させてね。」などと、声をかけていただきました。温かい気持ちに触れ、胸がいっぱいになりました。そして、大きな力になりました。

今回は、対面の寄附と同時に、クラウドファンディングも活用させていただきました。クラウドファンディングは目標が達成されないと支援を受け取ることができません。

新しい取り組みに戸惑いながらも、皆で教え合ったり、家族との話題にしたり、より一層みんながひとつとなって頑張ろうという気持ちが、強くなりました。

全国38都府県から、寄附をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

保護者会長 土田 千恵美

この度の募金活動において、多くの方々のご理解と御支援を頂いたことを、いぶきに通う保護者の一人として皆様に心から御礼申し上げます。

今から20年前、私の娘の通う第二いぶきは「重い障害のある人にも働く場を」を理念に設立されました。尊い理念を掲げても、それを実現することがどれ程難しいことだったか。今振り返っても「よくぞここまで発展し、先進的な福祉施設を作り続けることができたものだ」と思っています。そこには理事、評議員、職員の皆様の努力とファミリー会員の皆様のご支援があったからこそです。

第二いぶき開設の時、二つの難題がありました。その年度に30名の入所希望者が揃わなければならないことと、資金面で5,000万円が足らなかったこと。高等部進学を断念したり、高等部を中退したりして、なんとか30名が集まりました。卒業後、行き場のない私たちは、苦渋の決断をするしかない厳しい時代でした。資金は市民運動のおかげで達成され、スタートすることができました。

けれど、重度の障害のある人には多くの人の助けが必要である為、国から支払われる補助金だけでは厳しく、ここでもやはりファミリー会員の方のご支援が私たちの支えでした。あれから20年、今では66名が第二いぶきに通い、全体では150名程になりました。皆様のおかげで福祉は少しずつ前に進み、いぶきに通う仲間たちは、孤立することなく人と繋がりながら社会とも関わって生きていくことができています。そして、その家族は苦労も抱えながらも、安らげる時間をもつこともできます。これも全て皆様のご理解とご支援のおかげです。そして今回の寄附活動にも多くの方のご協力を頂き本当にありがとうございました。どうか今後とも、ご理解の程よろしくお願い致します。

パストラルいぶき第2期プロジェクト

2019年7月からの活動をデータにまとめました。

データで見る

ご支援の
総数

12月6日現在

件数: 1,928名

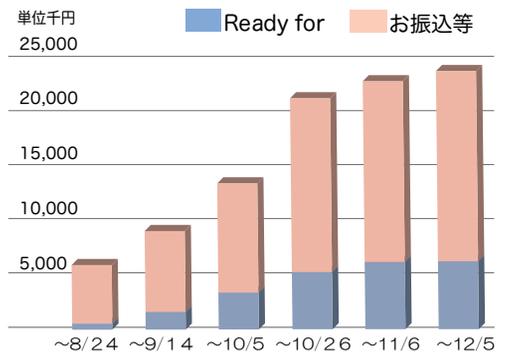
支援金: 24,220,117円

達成率: 121.1%

・お振込み、手渡しなど… 1,284名 17,894,117円
・クラウドファンディング… 644名 6,326,000円

ご支援の
推移

期 間	件数	お振込等累計	Ready for累計	合 計
8/3まで	341	3,549,908	0	3,549,908
~8/24	633	5,404,484	597,000	6,001,484
~9/14	983	7,497,931	1,682,000	9,179,931
~10/5	1,363	10,384,340	3,461,000	13,845,340
~10/26	1,683	16,248,068	5,319,000	21,567,068
~11/6	1,883	17,020,248	6,243,000	23,263,248
~12/5	1,928	17,894,117	6,326,000	24,220,117



映画
上映会

「星に語りて」映画会 計 15 回 延べ来場者数約 600 名

場所: いぶき・第二いぶき・北部コミュニティーセンター・メディアコスモス・ワークプラザ・
ハートフルスクエアG・美山中央公民館・鳳建設ふれあいホール・関市文化会館

販売会

出店回数 38 回

- ・コープ芥見店夏祭り
- ・中日新聞花火大会
- ・岐阜新聞花火大会
- ・コープ長良店夏祭り
- ・リバーポートパーク美濃加茂
- ・コープにてかき氷販売
- ・暮らしのひだまり市
- ・ふれあい福祉マーケット
- ・三輪北夏祭り
- ・岐阜盲学校オープンキャンパス
- ・FC 岐阜ホーム戦スタジアム
- ・コープぎふ西支所納涼祭
- ・飛騨の家具フェスティバル
- ・ハートフルスマイルコンサート
- ・クラフトフェア
- ・善光寺まるけ
- ・陶器バザー
- ・しぜんの色 いろいろ展
- ・かがやき秋まつり
- ・長良特別支援学校ふれあいの日
- ・きょうされん全国大会 in 愛知
- ・農業フェスティバル
- ・おしごと楽市楽座バザー

学習会
呼びかけ

- ・寄附学習会
- ・街頭募金活動(2回)
- ・この4ヶ月の対話をいぶきの未来につなげる会
- ・親亡きあとのことを考える親あるあいだ準備講座
- ・おしゃべり会など多数



この4ヶ月間の対話をいぶきの未来につなげる会

いぶき 伊藤 慎悟

令和元年10月22日、新天皇陛下の御即位をお祝いする、即位礼正殿の儀が行われたおめでたい日に、ハートフルスクエアG大会議室にて、「この4ヶ月間の対話をいぶきの未来につなげる会」をひらきました。この会は、パストラル第2期建設のために、2,000万円の寄附金を集めるという目標を掲げ、仲間・保護者・職員・そしていぶき福祉会を支えて下さった多くの方々と共に、プロジェクトの進捗と成果を確認しました。そして4ヶ月間を振り返り、挑戦してきた数々のエピソードを共有することで、共感の輪を作り今後の更なる動きにつなげるために開催したものです。



熱心に話を聴いてくださる会場の皆さまから笑いや拍手がおきました。

今回は、それぞれの立場で多くの方の想いのこもった貴重なお話を聞くことができました。産経センターの中島さんは、北部事業部の仲間が作るマカポンなどを置き菓子として販売していただいています。仲間が納品に訪れると職員さんがお茶を出して下さり、自然に関わることができていて、職員さんから今度はいつ来てくれるの?と心待ちにしてくれているというお話を頂きました。コープぎふの堀部さんからは、10年にも渡りいぶき福祉会と密接な関係を持ち続けてくれているというありがたいお話でした。岐阜盲学校校の長林さんからは、これまで自分の携わった多くの生徒が学校を巣立ち、色々な事業所で活躍している中で、いぶき福祉会やそれ以外の福祉施設も支えていきたいとの思いで寄附をしているという寛大なお話でした。仲間の原美智子さん・高瀬昌治さんからは、学校

や公民館が災害時の避難所となっていますが、障害のある人はなかなかその場所には行くことができない。でもパストラル第2期は防災拠点にもなっているので安心ですというお話でした。



同窓会でのエピソードをお話くださった藤田さん。

保護者からは同窓会に参加した際、寄附の話をするのが皆が快く賛同してくれて、人の優しさや温かさに触れ、寄附金が入った封筒を握りしめて床に就いたという感動のお話でした。

4ヶ月間という期間には多くの方の強い思いが凝縮しており、だからこそ寄附者数1,900名もの方の心を動かし、2,000万円の寄附を集めることができたのだと思います。



利用者の原美智子さんと高瀬昌治さんが代表を務めてくださいました。

仲間の願いや保護者の願い(まだまだグループホームに入りたい人はいる)を叶えるためにも、今回の寄附活動で思いを共有できた多くの方との繋がりを大切にして、対話を重ねながら、これからも障害のある人達が地域の中で幸せに生きていくことができるように前へ進んでいきたい、そして10年後20年後の未来をもっと豊かなものにできるようにしていきたいと強く思いました。

親亡きあとのことを考える親あるあいだ準備講座

いぶき 田中 潤美



10月22日、北部コミュニティセンターにて「親なきあと」相談室の渡部伸氏を招いて、公開セミナーを開催しました。渡部氏は行政書士・社会保険労務士でありながら、障害当事者の親でもあります。ご自身が戸惑った経験から、「親なきあと」相談室を開設されました。「親なきあと」相談室では、障害のある子をもつ親のために、自分たちがいなくなったあと、今ある法制度やサービスをうまく組み合わせることで、子どもが少しでも安心して暮

らせるようにアドバイスをされているそうです。

事例の紹介から、お金をたくさん残しても詐欺にねらわれる心配もあり、本人がお金で困らないためには、そのお金が本人の将来のために使われる仕組みを準備することが大切だそうです。

「自筆証書遺言の作成」「公正証書遺言」「障害者扶養共済制度」「成年後見制度」等、色々な制度を使って、財産を守る方法があることを知りました。それを今すぐを選択して実行するのではなく、親自身のライフスタイルの変化に合わせた適切なタイミングがあることを知りました。個別の相談には、ファイナンシャル・プランナーの団体の紹介があり、相談をしてもらえれば、関係機関へつなげてもらえるそうです。

100名を超える参加者の方々から、真剣な雰囲気が会場内にながれていました。

パストラルいぶき新棟 内覧会のご案内

パストラルいぶき新棟は2020年2月末に竣工の予定です。

4月からグループホームの入居・防災拠点の利用も始まりますが、それに先立って下記の通り内覧会を開催いたします。

日頃よりいぶき福祉会の活動を支えてくださるいぶきファミリーの会員・賛助会員のみなさま、ならびにこのたび寄附活動にご厚意をお寄せくださった皆様には、ぜひともご覧いただきたく、ご案内申し上げます。

ご多用とは存じますが、どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

ここで始まる仲間たちの暮らしを、楽しく思い描いていただければ幸いに存じます。

日 時 2020年 3月22日(日) 13:00~15:00
3月23日(月) 10:00~15:00
3月24日(火) 10:00~15:00

会 場 パストラルいぶきD棟 岐阜市出屋敷500-2(敷地内に駐車場もございます)

お申込 不要です。ご都合にあわせてお越しください。

問合せ いぶき福祉会法人本部 058-233-7445(北川)



パストラルいぶき第2期プロジェクト

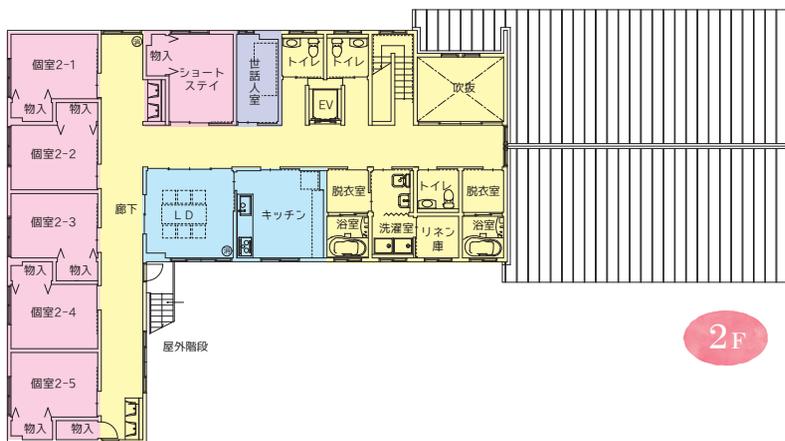
建設工事の
進捗状況



県道より。右手が防災拠点です。
1Fと2Fの水回りとLDKの窓が並びます。



第二いぶきの事務室より。平屋部分が防災拠点、屋根は既存棟と同じ濃灰色になります。うしろは出屋敷地区の里山です。



2F



居室は6畳に1間の収納がつきます。
広く使えるよう腰の高さの窓になっています。



1F



階段をあがってすぐの明るい吹抜です。
窓からは防災拠点の屋根越しにパストラルABC棟まで見渡せます。



1Fの居室前の廊下です。16mありますが採光もばっちり。幅はゆったりと1.8mあります。左側に5室が並びます。



防災拠点です。11m×9mの広い空間になっています。
玄関側の敷地に面して搬入出口を兼ねた大きな窓を作りました。
ここにも床暖房がはいります。

心のバリアフリー
ナビゲーター

恩田聖敬が

愛を語る!



vol.1 愛

愛とは何でしょう？

私は学生時代京都で同じ岐阜県出身の妻と出会い、19歳から付き合い始め、28歳で結婚して2人の子供を授かり、35歳でALSを発症し今に至ります。

妻は、京大大学院を修めながらベンチャー企業に就職した時も、東京での上場企業の役員の座を捨ててFC岐阜に行く時も、ALSの身でありながら株式会社まんまる笑店を設立した時も、何ひとつ反対しませんでした。学生時代に妻に「私のこと愛してる？」と聞かれたことがあります。当時の私は答えに窮しました。愛してるというのがどんな状態を指すのかわからなかったからです。

それがALSの身となりようやく分かりました。愛とは例えるなら次のフレーズです。

『どんな「もしも」が君の未来に割り込んでも構わないさ。僕はずっと君の味方さ』
(CHAGE&ASKA『if』より)

私はALSになり、少なからずの方から裏切

りに遭います。ビジネスパーソンとして喋れない男に利用価値はない、こんなわがままな利用者には付き合いきれないと、仕事においても介助者からも何度も裏切られました。

その度に心の支えになったのは妻でした。

「何があってもお互いに絶対に裏切らない存在」、そしてその根底にあるのは「お互いの価値観を認め合い、その能力を信じ合う存在」、それが私と妻の間にある愛の形です。妻はALSの私に対して「あなたが働かないのは岐阜県にとって損失だよ!」と言いました。妻は私の仕事への思いと、常に地べたを這いつくばって結果を出してきた私を間近で見してきた、世界で唯一の存在です。妻は学生の頃からそのことを実感しており、私はALSになって初めて愛を語れるようになりました。いくつになっても妻には敵いません(笑)

ALSも悪いことばかりじゃありません。私と妻の信頼関係を絶対的なものにしてくれました。元々赤の他人である我々夫婦に、共に生きる覚悟を植え付けてくれました。



同封の、きょうされん第42次
国会請願署名キャンペーンにご協力を!



障害のある人々を支える制度づくりのために
皆様のご協力をよろしくお願い致します。





お庭でひとと笑顔をつなぐ いぶきコミュニティガーデン



お庭ができるまえの日光町事業所



シンボルツリーをメインに、苗を特徴や咲く季節などを考慮しみんなで配置していきます。



どんなお庭にしたいかみんなでおしゃべり。利用者さんも参加してくれました。



とても気さくなコーディネーターのおふたり

コーディネーター

スマイルプラス代表
木村 智子さん(右)
まちづくりびと
千葉 順子さん(左)



いぶきファミリー会員(元法人理事) 森山 寿

いぶきにコミュニティガーデンをつくらうとの呼びかけがあり参加しました。我が家の庭も30年ほど前には、芝生を敷き詰め、レンガなどで花壇を造り、四季の花を植えていましたが、当時飼っていた犬に完膚無きまでに荒らされ、庭づくりはあきらめました。今回、いぶきで久々に庭づくりができるということで、楽しみにしていました。また、コーディネーターとして、造園コンサルタントの木村智子さんと千葉順子さんが、指導、援助をしていただけるとのことでしたが、プロの庭づくりとはどんなものかと興味がありました。花壇づくりは、まず、花壇ブロックで花壇の外側を造りました。その後、土づくりをしましたが、土は、「赤玉土3:培養土1」の割合で混ぜ合わせるとのことです、これは初耳でした。参加

者全員で数十袋の赤玉土と培養土を混ぜあわせましたが、これが結構な重労働。ただ参加者が多かったため、それほど汗もかかずに土づくりができました。そして、花壇の中央に「桂」の木を植え、その周りに、花の苗を植えるのですが、ここでプロの技を見ました。木村さんと千葉さんのお二人が、何十鉢もの花の苗を、花の色や大きさ、多年草、一年草などの種類で、花壇に仮置きしてゆかれましたが、その案配の善し悪しが、年中楽しめる花壇づくりの鍵となるそうです。素人ではそうした区別はできず、プロとアマの違いを見せつけられた思いでした。花壇は、仮置きされた鉢を参加者全員で植えて、無事完成しました。仲間や地域の人々が集い楽しめる花壇になってくれたらとおもいます。



コープ共済『地域ささえあい助成』をうけて、いぶきガーデンプロジェクトがはじまりました。コーディネーターに木村智子さん、千葉順子さんをお迎えし、地域の方やコープぎふ、いぶきの職員や仲間と一緒に和気あいあい楽しくお庭づくりを行いました。事業所の南向き縁側に、とても素敵な憩いの場所が完成。ワークショップにご参加いただいたおふたりに感想をいただきました。

コープぎふ 堀部 智子

「頑張ってたかったね～」たくさん働いた後のご褒美、いぶきさんで収穫されたおこげが香ばしい釜戸炊きのご飯やお野菜いっぱい豚汁、三年番茶などをおいしく頂きながらみんなの笑顔がはじけます。

いぶき福祉会さんとコープぎふはお祭りなどを通しての長いお付き合いですが、どれも一般の組合員の参加というよりは役職員や地域で活動する一部の組合員の参加に留まるものでした。地域のコミュニティを考えるいぶきさんと「おしゃべりの場づく



2日間のワークショップで完成した花壇

り」を大切にしている生協とで一緒に何か出来たらいいね、と最初に挑戦したのが「おしゃべりカフェ」です。島作業所と日光町の事業所で開催したところたくさんの組合員の参加があり、新たな可能性が広がりました。

今回の「お庭づくり」にも募集チラシに興味を持った組合員の参加がありました。花壇作りは整地、枠作り、土作り、植え込みなど様々な工程があり、慣れない作業ばかりでしたが皆でやるとあっという間。ぶつかったり尻もちをついたりしながらも楽しく進めることができました。植え込みも終わって縁側でお茶を飲みながらほっこりと。近所の子もたちが「何してるの～?」(しめしめ、気になってるな。)花壇がどのように育っていくのか、その周りでもどんなおしゃべりの花が咲くのかを考えるととってもワクワクします。

ふと立ち寄りたくなるようなそんな地域のたまり場になることを願い、これからも皆さんとこの花壇を見守ってまいります。



きょうされん全国大会グッズコンクール授賞式

いぶき 星場 真希

10月25日・26日、きょうされん全国大会in愛知にいぶきのみんで参加してきました。

きょうされんの発祥の地である愛知に戻ってきた全国大会で、今までの歴史に触れたりなかまたちの構成合唱の歌声を聴いたり、全国の加盟施設の物資販売に刺激を受けたり、それぞれ楽しんでくることができました。2日目にはきょうされんグッズコンクールの授賞式があり、西部事業部の切り文字が得意な桑原拓也さんの製作したカレンダー[僕の誕生日]が手帳の九月に採用になり、ホームの仲間でもオフに好きな絵を描き続け、今回は[クジャク]を応募した都築一雄さんの色鮮やかな作品が卓上カレンダーに付属したしたポストカードになりました。

みんなからの暖かな拍手を受けてはにかみながらも誇らしげに賞状を受けとる二人の様子に胸が熱くなりました。今回受賞した二人ともが作品に対して控えめで、誰かに評価されることよりも自身の楽しみや誰かと繋がるために続けてきた活動が評価されたことが非常に嬉しく感じました。桑原さんと都築さんの受賞を喜びつつ、いぶきのアート活動の中で次は誰にスポットが当たるのか?!楽しみにしたいと思います。





シリーズ

仲間のすかた

小川 志穂さん



自分でつくる暮らし、 自分で決める道

第二いぶき 藤澤 秀人

パストラルが開所して9年の歳月が経ちます。現在は月に2回の土日開所を設けており、仲間たちの中でも安心できる場所として定着して毎日自分のペースで穏やかに過ごすことができます。しかし、仲間にとって心の支えの核となっているのはかけがえのない家族であり、実家に帰省することを心待ちにしている方も多くいます。

パストラルで生活する仲間の一人に小川志穂さんがいます。絵がとても上手く、日中で楽しかったことを



お部屋で絵を描く小川さん。

明るく話してくれたり、上手く話がまとまらない時はノートで気持ちを伝えてくれたりします。

そんな小川さんにとって、2年前家族の柱であこがれでもあるお父さんが体調を崩されたことが大きな分岐点となりました。

小川さんは家族やパストラルの職員にあまり心配をかけないように極力笑顔で過ごし、毎日見せてくれるノートや会話の中でも「私はパストラルが好きです」「前を向いて頑張ります」と前向きな言葉がほとんどでした。小川さんには、「こうした暮らしがしたい」という思いがあり、自分で生活をつくることができる方なので、職員も話を聞くことを大切にすることをチームで共有して小川さんの気持ちに寄り添って過ごすようにしました。

それと同じく、月に2回の土日開所がスタートした時期でもありました。宿泊する仲間が多く、ついつい、いつもよりテレビのボリュームや話し声が大きくなってしまいう仲間もいました。

「いつもは大好きな家に帰れるのに」という不安な



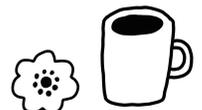
パストラルの前にてBBQをみんなで楽しむ。中央が小川さん

気持ちを抱えながら頑張っていた小川さんにとって普段ならあまり気にならないことでも「音をどうにかして欲しい!」と強い口調で訴えることがありました。職員が間に入り、その都度話し合ってお互いに納得しながら、2週間が経ち帰宅する前日の夜に、小川さんから話がありました。「私考えたんですけど、テレビの音や話し声など、いつも泊まらないからお父さんやお母さんに会えずに、不安やったかもしれんね。寂しかったからテレビの音が大きくなったんやと思う」と話してくれました。

どこか清々しい表情で、「私と同じなんだ」と思える存在がいたことに嬉しさを感じているような様子でした。その日を境に小川さんの中でどこか気持ちの整理が少しいたような様子で、笑顔も増えてきたような気がします。

大切な人と一緒に過ごせる時間には限りがあり、普段の生活の中でじっくりとどうしたいか考えることは少なく、どちらかというと考えたくないことです。小川さんにとってパストラルでみんなと一緒に嬉しいことや悲しいこと、不安な気持ちを少しずつ重ねていくことによって心の整理に繋がり、自分の大切な人とどう過ごしたいか向き合える時間になっていることを私自身も深く考えさせられました。

今後、多くの仲間が親と別れ、自分自身の老いなどと向き合うこととなったとき、彼らを支える周りの大きなつながりの中で、いつもと変わらぬ同じ生活ができるよう、心の支えのひとつとなれるよう毎日気持ちを寄せていきたいと感じます。



パストラルいぶき
第2期プロジェクトに
ご寄附いただき
ありがとうございました。

.....

2019年12月9日現在
1,556名の方より
ご寄附いただきました。







いぶき日和 その2

題:(うそやろ〜)フェイスニュース

作:フジイ 絵:ムラハラ



後日、本当に“男の子”が産まれたそうです。

後日、お母さんに聞くと

編集後記 林守男

今から20年前の1999年12月31日の大晦日から元旦にかけて、第二いぶきに詰めていた。いわゆるミレニアム問題で行政からライフラインに異常が起きないかを確認するようにとの通達があったからだ。当時、第二いぶきの周辺は漆黒の闇で、県道を走る車のヘッドライトが蛍の光のように浮かんでいた。そんな地域が20年の年を経て大きく様変わりした。コラボいぶきが増築され、パストラルいぶき3棟が整備され、さらに2020年4月開設予定の新パストラルも工事中である。4月から31人の障害のある仲間たちが暮らしていく、かけがえのない地域となる。不思議なご縁でともに住むこととなった仲間たちに幸多かれと願う。